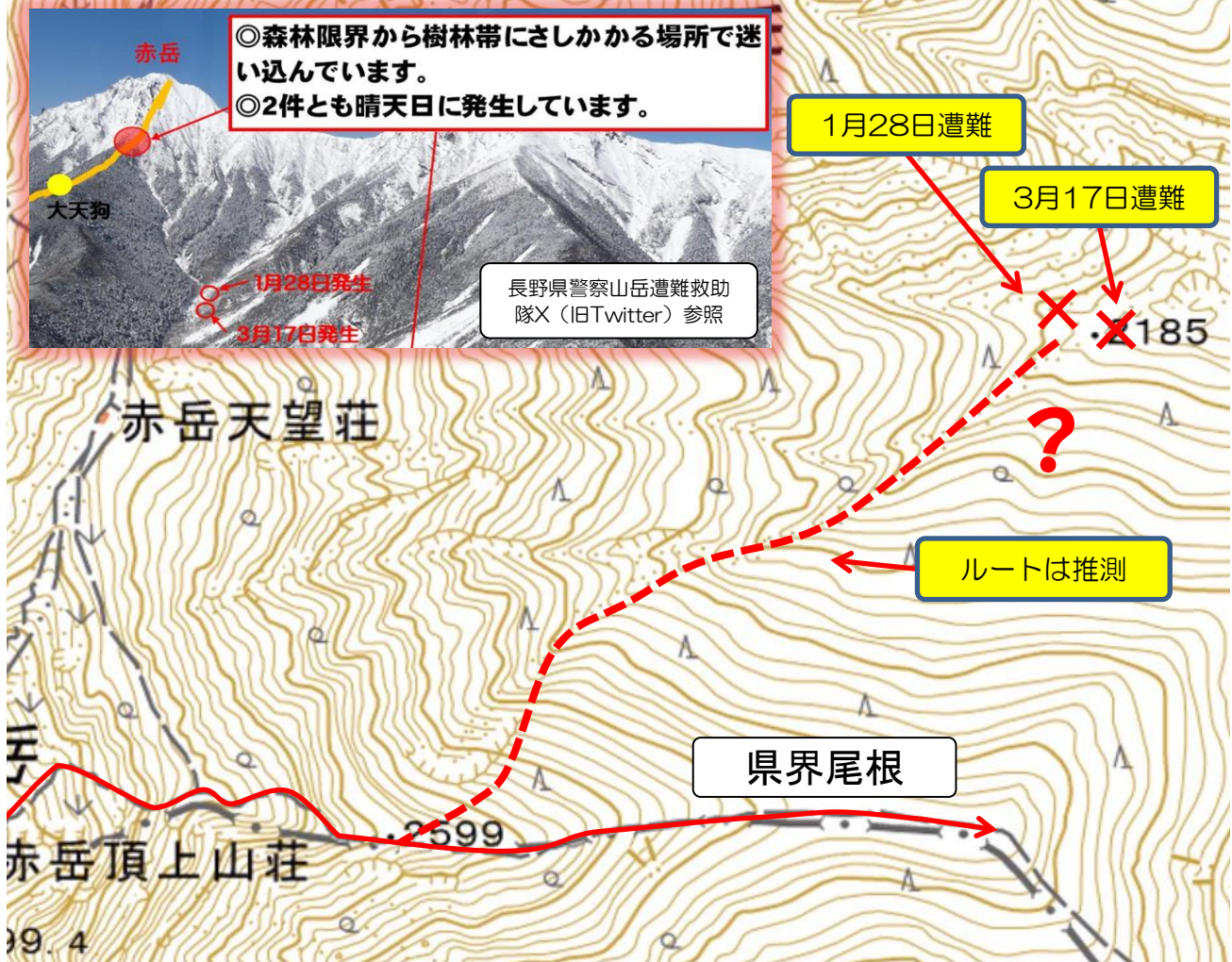


赤岳遭難(2023年3月)

残雪期で、晴天にもかかわらず下山中、支尾根や沢に迷い込み遭難したが、無事救助された。



解説

八ヶ岳の県界尾根における道迷い遭難は2件目となり、2件ともほぼ同じ場所で発生しています。いずれも晴天にもかかわらず下山中、支尾根や沢に迷い込んでいます積雪期は地形図から現在地を把握するスキルが必要です。(長野県警察山岳遭難救助隊X参照)

同じ場所で、1月と3月に道迷い遭難が発生。県界尾根は顕著な尾根をそのまま下ればよさそうだし、晴天なので周りが見えているから普通では考えられない遭難事例にも思われる。しかし、なぜか同じ場所で道迷いが発生している。

仮定だが、森林限界から樹林に切り替わる場所で、遭難地点までは雪面が続いているのためそのまま雪面を下降してしまったのではないかと想像してしまう。しかし、地図の先読みをしていれば決して沢を下るような行動はとらないはずだが、道迷いの心理は、分からないことが多い。残雪期の登山はそれなりの経験と読図能力が必要。特に残雪期の登山は道迷いに対して常に注意しながら行動したい。残雪期は一端高度を下げてしまうと尾根まで戻るの容易ではない。肝に銘じたい。